

島根原発の稼働中止を

松江 党県議団、市議団が宣伝



東日本大震災・福島第1原発事故から9年目の11日、松江市で尾村利成、大國陽介の両県議、市議団、吉井安見・党県委員が宣伝し、「原発ゼロの安全・安心の島根」の実現への決意などを訴えました。(写真)

尾村県議は「安全な原発などあり得ず、何度でも不正、不祥事を続ける中電に原発を動かす資格はないと強調し、「引き続き国や県、中電に島根原発の稼働中止を求めていく」と力を込めました。大國県議は増え続ける放射能汚染水処理の解決など福島原発事故は未だ収束していないと述べ、「事故を終わらせたことに

し、原発再稼働を無責任に推進する安倍政権は一日も早く終わらせよう」と呼びかけました。

「原発ゼロの島根」の決断を

民青県委員が県に申し入れ

民青同盟県委員会は16日、県に島根原発の2号機再稼働、3号機の新規稼働は認めず、青年が安心して暮らせる島根を実現するよう申し入れました。民青県委は2月29日～3月1日まで福島県南相馬市や浪江町、大熊町などを訪れ、被災地の実態を調査しました。

福島を調査した後藤真実子委員長ら青年5人が県庁を訪れ、日本共産党の尾村利成、大國陽介の両県議が同席。後藤委員長らは「危険な原発に頼らず、再生可能エネルギーの普及で青年が安心して働ける雇用の場の創出▽青年の不安や疑問、意見を十分に掌握した施策の展開」などを要請。福島は「原発ゼロを決断してほしい」と求めました。

上げるなら支持率下げる倍返し

「増税だ ダンナのこづかい 減らさなきゃ」 ネットで「消費税川柳」と検索すると哀愁漂う一句がいくつでも出て



大平よしのぶ 前衆議院議員

アツく くく
やさしく

「増税だ ダンナのこづかい 減らさなきゃ」 ネットで「消費税川柳」と検索すると哀愁漂う一句がいくつでも出てきます。今年も確定申告の時期になりました。業者にとっては消費税の10%増税と複数税率導入が強行されて最初の確定申告となり、煩雑で膨大な事務量に大変な苦勞を強いられています。しかし、そんな大変な申告作業を行い、払う税金が少しでも減るのなら、まだ頑張ろうかという気にもなりませんが、むしろ、これまで以上に身銭をきって払わなければならないという方がほとんどです。許せませんね。

私たちが一貫して消費税の廃止をめざし、まら労働者に当てはめて計算をしながらみると、払う税金はなんとたったの100円でした。こっちは100円、100円を取り戻すために必死に頑張っているというのに、大企業は払う税金が100円かい！と。彼らがどれほど優遇されているか、一目瞭然ではないでしょうか。私たちは法外な要求をしているわけでは決してありません。せめて大企業は中小企業と同じだけ、富裕層もサラリーマン並みに税金を払ってほしいと求めているだけです。すぐにでも実現可能。ぜひ野党の共通政策へと押し上げ、実現に力を尽くしたい。この3月、多くの業者さんとともに力をあわせて。最後にもう一句発見「上げるなら支持率下げる倍返し」。

(2月24日記)

小松

実はコラムのタイトルをどうするか。担当の方に「タイトルの案を出してください。そこに僕に書いてもらいたいコンセプトが込められる。僕も考えるけど、そちらも出してください」と言ったら、「岡山で生活している小松さんに頼みたいことは、地方からのまなざし・目線で自由闊達に言ってもらいたい」と。地方からの目線：眼力。地方を大切に、そういうところからものを申す。さらに自分自身が地方から発信していくという二重三重の意味があるんです。

仁比聡平 × 小松泰信 対談③



小松泰信・岡山大学名誉教授
著書「隠れ共産党宣言」
「農ある世界と地域の眼力」

小松 そうなんです。ね。仁比 こないだの高知県知事選で、松本けんじ候補や保守の広田はじめ衆議と「誰ひとり取り残さない県政を」と回っているもそれを感じました。

そこに人が住んでいて家族があつてというのは、それぞれの歴史と理由があるじゃないですか。だからどんな山村だったり、経済的には長く不振が続けてきたような地域でも人がいるというのは大きな理由があつて、その人たちが住み続けていくために働かせてきた知恵がたくさんあるんですよ。地域づくりとか、農林水産業の在り方とか。現実の生活という足場に立って見た時に中央政府の言うのとは違うぞという眼力みたいなのがでてくるのかな。

小松さんの隠れ共産党宣言の中で、新自由主義がこれほど生活を破壊してくる、生業を破壊してくるというもどで、農林水産業が基幹産業だと規定している党が日本共産党以外にあるのか。ないではないか。そのフレーズが出てくるんですね。地方の眼力、生活の現実にも立っているからでしょうね。その力をみんなが一つにしていけば西日本も変わります。小松 安倍政権、そして基本的にはDNAが同じ自民党政権は打倒していくべきだと強く思っています。(続く)